

受験番号

●	●	●	●	●
---	---	---	---	---

社会科学

問題冊子

指示

合図があるまでは絶対に中を開けないこと

1. この試験は、資料を読んで、あなたがその内容をどの程度理解し、分析し、また総合的に判断することができるかを調べるためのものです。
2. この冊子は前半が資料で、後半に**40の問題（1-40）**があります。配点は80点満点です。
解答カードには表裏あわせて100の解答欄がありますが、41以降は使用しないでください。
3. 解答のための時間は、正味**70分**です。資料を読む時間と解答を書く時間の区切りはありませんから、あわせて70分をどう使うかは自由です。
4. 解答のしかたは、問題の前に指示してあります。答えの記入のしかたが指示どおりでないと、正解でも無効になります。
5. 答えはすべて、**解答カード**の定められたわくの中に**鉛筆**を用いて書いてください。
それ以外のところに書いたり、また答え以外のものを書きこんだりすると無効になります。
6. 一度書いた答えを訂正するには、消しゴムで**きれいに消してから**、あらためて正しい答えを定められたとおりに、はっきり書いてください。
7. メモには**この問題冊子の余白**を用い、ほかの紙は使用しないでください。
8. 「解答やめ」の合図があったら、ただちにやめてください。試験監督が問題冊子と解答カードを集め終わるまでは、退室できません。
9. この指示について質問があるときは、試験監督に聞いてください。ただし問題の内容に関する質問はいっさい受けません。

「受験番号」を解答カードの定められたところに忘れずに書き入れること

平和を求めて、これを追え

“Let them seek peace, and pursue it.”

桜並木の美しいキャンパスに礼拝堂があり、そこに設置されている「平和の鐘」には、聖書のこの言葉が彫り込まれている。平和は希求するだけでは不十分で、これを見逃さずに追う行動が伴わないとすぐに逃げてしまうからなのだろう。この「平和の鐘」は、アメリカ同時多発テロ事件からちょうど一年後の 2002 年 9 月 11 日に奉献された。大学創立 50 周年に寄贈されたものだが、もともと平和研究はこの大学の創立目的の中核にあった。

第二次世界大戦末期、中島飛行機三鷹研究所だった現在の大学本館の建物では軍用機のエンジンや機体の研究開発がされていた。この建物の建設が始まった 1941 年 12 月 8 日は、歴史的な転換点として広く記憶されている。この大学の創立者たちの胸には、「剣を鋤に」打ち直し、二度と戦争を起こさないよう平和をつくる人々を育てたいとの思いがあった。キャンパスには、この思いが表現されている場所がいくつもある。例えば、図書館前にある一本松の根元には、サンフランシスコ平和条約を記念した小さな石碑が置かれている。約 7 年間に及んだ占領が終了し、平和条約発効の日に大学の献学式が執り行われたのである。また、シーベリー記念礼拝堂の西側壁には、「心の純潔とは善を意欲することである」という言葉が刻まれている。もともと実存主義の先駆者キェルケゴールの言葉とされるが、今ここに存在する私たち一人ひとりが何を求めて大学で学ぶべきかを問うことは重要な共通課題だろう。

平和を求めてこれを追うために主体的に学ぶとしても、そもそも平和とは何なのだろうか。平和の本質はあるのだろうか。（ア）のオスロ国際平和研究所創設に関わったヨハン・ガルトゥングは、平和概念の二側面を区別する。個人的暴力の不在を意味する「消極的平和」と、構造的暴力の不在（あるいは社会的正義の実現）を意味する「積極的平和」である。従来の平和観は、国家間の戦争における行為主体の直接的な暴力に注目が集まっていたきらいがある。積極的平和の概念は、そうした狭義の平和観を超克するものである。しかし、「長い平和」と呼ばれた冷戦期においても直接的暴力と構造的暴力の両方が存在した。むしろ平和のグランド・デザインとしては、どちらかの側面を固定的な本質とはとらえずに同時並行して追求し、構造がどのように主体を拘束し、また主体が構造をどのように変えうるかを明らかにすることが重要だろう。

そうしたグランド・デザインが一瞬実現するかに思えたのが、米ソ冷戦の終結であった。冷戦後の世界では「平和の配当」が期待され、軍備にかけてきた資金や資源は貧困削減や持続可能な開発のために使われるはずだった。しかし、国家間戦争に代わって内戦が世界各地で頻発し、人道的危機が深刻化した。1990 年代以降の経済のグローバル化の進行は貧富の格差を拡大させ、アメリカ同時多発テロ事件以後の「対テロ戦争」は、再び軍事化を進行させた。21 世紀に入ると、

金融危機、人口爆発、食糧・エネルギー危機、気候変動などさまざまな危機が影響し合う複合的な危機が、人類が安全に活動できる境界をも超える深刻な課題群を形成している。

* * *

平和の試みはなぜ失敗し続けるのか。その原因を探るために、さまざまな学問分野で知見が蓄積されてきた。分野によって想定する主体や含意は同じではないが、社会科学の領域におけるいくつかのアプローチを概観することで包括的な取り組みを考えてみたい。

歴史学は古くから戦争の歴史を語り描いてきた。「歴史は繰り返す」という循環史観は、進歩史観や唯物史観などによって批判されてきた。しかし、歴史の諸局面において時折現れる何らかの類似性から、現在や未来への教訓を得ることはできるだろう。冷戦期には、その類似性からトゥキディデスの『ペロポネソス戦争史』が読み返された。冷戦後の世界は、どの歴史局面に似ているだろうか。世界各地で地域統合の動きがあることから、経済がブロック化した戦間期に似ているだろうか。それとも16～17世紀の近代ヨーロッパに形成された主権国家体制のなかで、相変わらず新たな大国が軍事的な過剰拡大と経済的な盛衰を繰り返していると見るべきだろうか。主権国家体制はその使命を終えつつあり、むしろ今日のグローバル社会には「新しい中世」と呼ばれる状況が出現しているとの見方も広がっている。主権国家の統合や分離独立が展開するだけでなく、多国籍企業や市民社会組織などの非国家主体の台頭や新しいコミュニケーション・ネットワークの形成によって地球市民としての帰属意識も重層的に形成されているからである。

歴史家たちは、史料を丹念に発掘し、どのような紛争の種がいつどこにあったかを見極めて史実を再構成する。冷戦後には旧ソ連・東側諸国における公文書開示も始まり、複数国の一次史料をもとにした研究も進展している。ソ連のゴルバチョフの登場で進展した冷戦の終結は、決して1970年代の米ソ両国の軍縮や緊張緩和（デタント）から一直線に展開したのではない。1975年の全欧安保協力会議ではヘルシンキ宣言が採択されたが、デタントがすぐに冷戦の終結に直結したわけではなかった。グローバル・レベルでの米ソ対立構造とヨーロッパ地域やアジア地域の動向、軍事・政治要因と経済・文化要因などが時間と空間のなかで複雑に交錯し、デタントから新冷戦を経て冷戦終結へ向かったダイナミズムを歴史学は解き明かし始めている。

発掘された史料自体の信憑性も含めて、それらをどう解釈するかは論争的である。そうしたなかで、健全なナショナリズムを保持しながらそれを超克しようとする試みのひとつが、フレデリック・ドルーシュらを中心にヨーロッパ諸国の複数の歴史家たちによって編纂された教科書『ヨーロッパの歴史』であろう。その作成過程では、時代ごとに分担執筆した記述を何度も読み直し、討議を通じて相互検証したという。

しかし、こうして編纂された教科書が実際に正式採用されるかどうかは別問題である。初等中等教育の管轄権はヨーロッパ各国政府にあり、欧州連合などの地域機関にはないからである。

また、この教科書で学んだ学習者の意識や行動に、ユネスコ憲章前文にあるような影響を与えているかどうかも明確ではない。こうした試みは、現在の欧州統合の視点が影響していることも否めない。そのために、真実や事実とは必ずしも同一ではない歴史的現実が再生産される可能性もあるが、ヨーロッパが生み出した国民国家や超国家をめぐる歴史認識が相互主観的に問い直されつつあることは確かだろう。

* * *

法学によれば、法の支配の不徹底さが平和を実現できない原因のひとつである。国際法においては、効果的な国際法体系の構築が平和への課題ということになる。国際法の父と呼ばれるグロティウスが三十年戦争期に書いた『戦争と平和の法』は、当時のオランダの利害に沿うものであったが、これを機に自然法にもとづく国際法の展開が始まった。これが20世紀になって新しい展開を見せた国際人権法や国際人道法へ継承されている。

「世界人権宣言」は1948年の国連総会で採択され、その後の国際人権法の発展の基礎となっている。人間が生まれながらにして持つ、奪われてはならない権利について、国家権力を制限する自由権的基本的人権と最低限の生活の保障を国家へ要求する社会権的基本的人権とを便宜的に区分することもあるが、これらの人権を不可分のものとする権利ベースのアプローチが唱えられている。基本的人間ニーズを満たすための従来の物理的、財政的支援が軽視されたわけではないが、人権を享受する主体の意識やそれを保障する主体のエンパワーメントや制度化が社会正義を実現するうえで重要だと認識されるようになった。

こうした考え方を国際人権法に体系化してゆく原動力として、国連や人権NGOの役割は大きい。人種差別撤廃条約、女性差別撤廃条約、子どもの権利条約、移住者の権利条約、障がいのある人の権利条約などの形成や実施において、NGOのネットワークが大きな役割を果たした。NGOの貢献は、国際人道法においても見られる。国際人道法は、もともと後に赤十字国際委員会に発展した民間組織が提案した交戦法規から始まった。比較的最近の事例では、対人地雷禁止条約や国際刑事裁判所設立規程などをNGOが同志国とともに成立させた。この裁判所は、戦争犯罪などの重大な犯罪について政治指導者や軍部責任者を裁くことによって再発を防止しようと意図している。

政治学は、政治指導者が権威主義的パーソナリティを持っていたかについても注目してきた。ヒトラーにしても、ミロシェヴィッチにしても、サダム・フセインにしても好戦的傾向があったという指摘がある。しかし、フロムによれば、指導者だけでなく一般の近代人には自由を求める一方で自発的活動ができないときには権威を求めて自由から逃走する傾向がある。ドイツで民主的なヴァイマル憲法が制定され、世界的にもデモクラシーが進展した戦間期の自由な雰囲気の中かでファシズムが台頭したことを説明するためには、人々の社会心理的な側面を見る必要がある。

指導者や市民といった主体ではなく、民主主義をはじめとする政治体制の構造に注目する政治学者もいる。マルクス・レーニン主義理論によれば、資本主義国家が戦争を起こす。これとは逆に、民主主義国家間は戦争をすることがほとんどないとするデモクラティック・ピース論もある。ブルース・ラセットによれば、その理由のひとつは、民主主義国内での権力制限や紛争の平和的解決の規範や文化が民主国家間の利害対立にも適用されるからだ。権力分立や世論支持を必要とする制度や構造が民主主義国家間の戦争行動の歯止めとなっているというわけである。彼は実際に証拠も挙げているが、データをどう解釈するかは、民主主義や人権、戦争をどう定義するかにもよる。

ジム・イフェによれば、人権には個人と集団の側面があるのと同時に、権利を保障する責任にも個人と集団の側面がある。自由民主主義は、個人の権利と自己責任を想定する。これに対して、社会民主主義は、個人の権利と集団としての国家の責任を重視する。これらふたつの民主主義に対して、個人の責任と集団の権利、あるいは集団の権利と責任を強調する民主主義もありうる。前者については、「修己治人」や「経世済民」といった儒教の思想が、君子個人の徳目をめぐる責任と対人関係の調和（集団的権利に相当するもの）を示していると考えられる。後者については、共同体の責任と権利を尊重する立場として、「共同体主義」が位置づけられる。アジアの集団的価値観や共同体を強調する立場は封建的な制度を擁護するものだと批判を受けることもあるが、いずれも個人主義に対置される全体主義や国家主義を肯定するものではなく、閉鎖的なムラ社会を肯定するものでもなかろう。むしろ、自由な個人の集団での自律性や個に対する共同体としての連帯責任の重要性を指摘しているように見えるべきである。また、国内だけでは人道危機に対処できないときに、「保護する責任」は国際社会という共同体にあるとする国際認識も生まれている。こうした動きは、共同体の意味や範囲が変化しながら再評価されていると言えよう。

* * *

政治経済学によれば、第二次世界大戦の原因は世界恐慌にあった。世界恐慌に際して、ブロック経済や軍拡路線がとられた結果として戦間期の平和が崩壊したことから、戦後国際政治経済体制は国内ではケインズ主義をとり、国際的にはスミスの自由貿易体制、いわゆるブレトンウッズ体制が整備された。しかし、この現代資本主義体制も 1960 年代末から 1970 年初頭以降に構造的なほころびを見せはじめ、ブレトンウッズ体制の崩壊以降、基軸通貨としての米ドルの信認が揺らいだ。パリー・アイケングリーンによれば、21 世紀の国際通貨体制は、世界通貨かユーロのような地域通貨のふたつの体制だとされる。国際通貨基金は特別引出権制度を創設して共通表示単位での資金調達の可能性を広げたが、世界中央銀行の設立や世界通貨の創設となると政治的にも難しいので、現実的には地域通貨となると見ている。

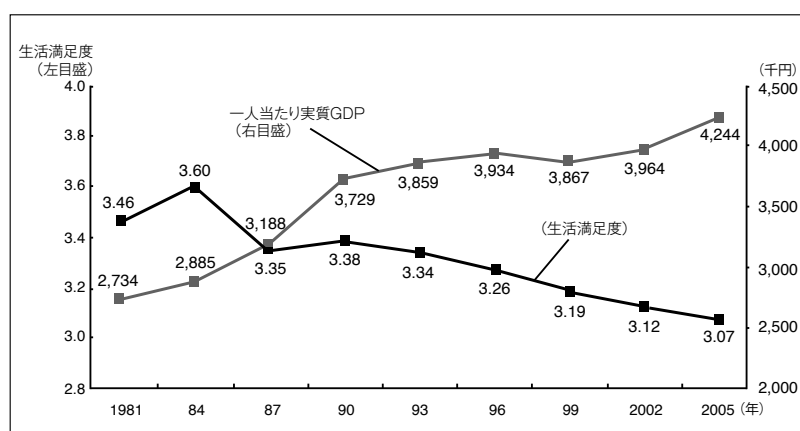
しかし、2007 年に表明化したサブプライムローン危機や 2008 年のリーマン・ショックを契

機に世界は「第二次世界恐慌」に突入したとも言われ、その後に深刻化したユーロ圏の政府債務危機により、ユーロはいま大きな試練を受けている。地域社会では、恐慌時でもある程度の商品やサービス交換が可能なインフォーマルなコミュニティ通貨や相互扶助によるマイクロ・クレジットなどの活用も見られるが、ブレトンウッズ体制に取って代わる支配的な体制はまだはっきりしない。貨幣の役割については、価値を表示し、貯蔵し、交換する機能があるとされるが、かつてマルクスが指摘したように、貨幣にはそれ以上に力関係を決めてしまう機能もあるように思われる。

マクロ経済学の主要な研究課題は、持続的な経済成長をどう維持するかである。しかし、そもそも豊かさとは何かを考えさせられる興味深いデータとして、図1の経済成長と生活満足度に関するデータがある。心理学者による研究の表1や表2のデータを併せて見ると、経済成長と幸福度は必ずしも対立概念ではないと考えられるが、経済の豊かさと人々の満足度や幸福度の関係は単純なものではない。むしろ経済成長が人々の幸せに結びつかない「幸福のパラドックス」も見られる。

王制から議会制民主主義を基本とする立憲君主制に移行した（イ）では、国民総幸福（GNH）を国家の指標として打ち出しているが、従来の国内総生産（GDP）を超える指標については、国連開発計画の人間開発指標（HDI）が国際的に広まった。先進国では、イギリスのティム・ジャクソンの「成長なき繁栄」論やフランスのセルジュ・ラトゥーシュの「脱成長」論など経済成長を批判的に再検討する研究も注目される。途上国の人間開発を改善するためのミレニアム開発目標（MDG）の目標年を間近に控えて、今後は途上国だけでなく先進国も対象となる持続可能な開発目標（SDG）を設定するための国際的議論も始まっている。

図1 日本における一人当たり実質 GDP と生活満足度の推移



（出典：内閣府『平成20年版 国民生活白書』2008年）

表1 世帯年収と幸せ（2004年アメリカ一般社会調査）

年収	あまり幸せとは言えない	非常に幸せ
約 200 万円未満	17.2%	22.2%
約 200 万から 499 万円	13.0%	30.2%
約 500 万から 899 万円	7.7%	41.9%
約 900 万円以上	5.3%	42.9%

（出典：大石繁宏、2009 年。1 ドルを約 100 円として換算。
原典は、Daniel Kahneman, et al., “Would You Be Happier If You Were Richer?” 2006.）

表2 人生の満足度（1～7点）

アメリカの大富豪	5.8
マサイ族	5.4
アーミッシュ	5.1
イリノイ大学の学生	4.7
カルカッタのスラム住民	4.4
ウガンダの大学生	3.2
カルカッタのホームレス	3.2
カリフォルニアのホームレス	2.8

（出典：大石繁宏、2009 年。原典は、
Robert M. Biswas-Diener, “Material Wealth and Subjective Well-Being,” 2007.）

経営学においては、企業の社会的責任（CSR）との関連で平和ビジネスが議論されることがある。最近の文脈では、石油産出量の最大ピークの認識が従来のビジネス経営を変える契機となった。化石燃料全体の産出はなお増加するかもしれないが、国際エネルギー機関によれば、在来石油産出のピークは既に過ぎている可能性がある。その結果、資源収奪型の紛争や競争が激化する危険性がある一方で、先進的な企業は再生可能エネルギーに投資するなど従来のビジネス経営の価値観や方法を変革させている。株主の短期的利益だけを射程に入れるのではなく、環境、労働基準、人権、腐敗防止など利害関係者（ステークホルダー）の関心事項をめぐる基本原則に賛同する企業や団体が自発的取り組みをしている。そうした取り組みは法的拘束力がないので効果がないとの批判もあるが、「企業の社会的責任」を超えて、マイケル・ポーターらが提唱する企業と社会の「共有価値」を基本に置いて、長期的なサステナビリティに結びつくビジネスモデルを追究する先進企業もある。

そうした平和ビジネスの基本価値は、公正である。現世代と将来世代との間の公正と、現世代内の公正である。その意味で、環境正義や社会正義を実現するためのビジネスは、自然や人々への非暴力を基盤にすべきである。具体的には、生産や消費活動を変革するために、環境破壊や人権侵害やガバナンスなど市場メカニズムに反映されにくい外部性に関わる非財務情報を、有価証券報告書などの財務情報に結びつけて開示する統合報告などが模索されている。ヨハネスブルグ証券取引所のように統合報告を上場企業に義務づける事例も出て来ており、持続的な平和ビジネスを実現するために経済、社会、環境といった諸側面がどうビジネスに国際標準化されてゆくか今後の動向が注目される。

* * *

社会学によれば、紛争の原因は社会構造や社会変動などに求められる。なかでもジェンダー研究では、男性中心主義的な組織としての軍隊、政界、企業などにおけるピラミッド型の支配

構造や動態を解明してきた。そこでは女性を守られるべき対象で、これを守れない男性は「男性らしくない」といった「男性らしさ」や「女性らしさ」のステレオタイプが再生産されている。イラク戦争後のアブグレイブ刑務所では、女性を含む米軍兵士によるイラク人拘留者への拷問・性的暴力行為が見られたが、これをもって暴力に男女差はないと結論するのは短絡的である。ジェンダー研究が目指すのは、男性中心主義的な社会構造を維持しながら「ガラスの天井」を壊すことではなく、既存の社会構造自体をどう作り変えるかを問うことだからである。しかし、アフガニスタンの選挙制度改革のように、社会構造が再構築されていない状況下で女性の政治参加拡大のために即効性のあるポジティブ・アクションがとられると意図せざる反動を招いてしまうこともある。

人間の残虐な行為について、人類学はどのような答えを出してきただろうか。長い間、同じ生物種の仲間を意図的に殺戮する動物は人間だけだとされてきた。しかし、それは証拠が目撃されていなかったからに過ぎない。アフリカでフィールド調査をした人類学者リチャード・ランガムによれば、人間にとって遺伝的に近縁とされる類人猿のチンパンジーもオスが結束してすさまじい暴力によって集団内の地位争いや集団間のなわばり争いをすることが観察された。人間の男性の暴力性の起源をチンパンジーのオスに見た人類学的研究が、戦争指向は人間固有のものではなく人類誕生以前の過去にまでさかのぼると結論したところで、平和研究にとって救いのある含意は導き出せそうにはない。しかし、類人猿の別の種であるボノボ（ピグミーチンパンジー）の社会は平和的に進化しており、ボノボのメスがオスと同等の力をもっていることが平和の鍵になっているらしいことも分かってきた。

* * *

社会科学적인観点から言語やコミュニケーションを扱うアプローチも盛んだ。「言語論的転回」と呼ばれる言語哲学をめぐる論争に大きな影響を与えた一人がルートヴィッヒ・ヴィトゲンシュタインである。彼は、言語の意味を形而上学的に考える立場から、「言語ゲーム」と呼ばれる言語行為とそれが織り込まれる総体の文脈で考える立場へと転換した。彼自身、言語ゲームを明確に定義しなかったが、ゲームと呼んだのは日常の生活形式で使われるルールといった意味合いである。

国連憲章が想定する平和のための集団安全保障が機能しなかった冷戦期には、憲章に規定されていない停戦監視による平和維持活動が出現した。冷戦後の平和活動は停戦監視だけでなく選挙監視のほか、平和的に紛争を解決することを目指した「平和創造」、限定的な武力行使も辞さない「平和強制」、紛争後の復興・開発につながる「平和構築」など新しい平和活動の言葉が使われた。ソマリアで失敗した「平和強制」は定着しなかったが、内戦が頻発した冷戦後の世界では、「平和構築」という言葉がより広く使われるようになった。平和をめぐる言語ゲームの観点からすれば、これらの言語が指す整然とした理想的な平和がどこかにあるわけではなく、

新たな言語のルールが修正され、承認されることによって世界そのものが作り出されてゆく。国家間の宣戦布告で始まる従来の「戦争」の言語ゲームとしては理解できない「内戦」や「対テロ戦争」という新しい言語ゲームも出てきた。国境を超えずに戦災や迫害から避難している人々は難民の地位に関する条約で定義されている「難民」として語ることはできないが、旧ユーゴスラヴィア紛争に対処した国連難民高等弁務官事務所の実務の文脈のなかで、「国内避難民」という新しい言葉で語られるようになった。

言語は社会環境的な事実として構成されるという見方に対して、言語は半ば生得的であると考えた言語学者にノーム・チョムスキーがいる。そのチョムスキーの言語観とは必ずしも直接的に関係するものではないが、チョムスキー自身は自由世界の指導国としてのアメリカのエリート階級による情報操作や「同意のねつ造」を批判してきた。ヴィエトナムやラテンアメリカへの介入や同時多発テロ事件後のアメリカ外交政策にも批判的だ。情報コミュニケーション技術が発達したにもかかわらず、心のコミュニケーションが効果的になされないのはなぜだろうか。言語にはコミュニケーション以上の何か不思議な力があり、そのメカニズムが解明される必要がある。

2011年3月11日の東日本大震災後の日本でも、世論を一定の方向に誘導するマスメディア報道の意図がはっきりと見えた人々が多いのではないか。これまで正しいと信じてきた情報源が実はかなり偏ったものだったと多くの人々が気づいた。ジャーナリズムを分析する際には、フレーミング概念がしばしば使われる。フレーミングというのは、特定の反応を引き出すために物事のある部分の事実を枠付けによって切り取って提示することである。

ガルトゥングによれば、平和ジャーナリズムは複数の目的を持つ複数の当事者の複数の問題によって紛争が形成された過程を報道するのに対して、戦争ジャーナリズムは二者の友敵関係に焦点を当てた紛争現場を報道する。平和ジャーナリズムはすべての対立者の不正を調べて報道するのに対して、戦争ジャーナリズムは敵側だけの不正や偽りのニュース（プロパガンダ）を報道する。平和ジャーナリズムは平和活動をする市民に焦点を当てるのに対して、戦争ジャーナリズムはエリートに焦点を当てがちである。平和ジャーナリズムが非暴力と平和への創造的な紛争解決を報道するのに対して、戦争ジャーナリズムは一方の勝利や停戦合意を強調する。

フレーミング効果が戦争ジャーナリズムに容易に利用されてしまうのは、データの見せ方を変えることで人々の見通しの判断も変えることができるからである。例えば、1994年のルワンダ内戦では、ツチ族とフツ族という植民地支配に利用された曖昧な民族概念の対立を煽動するラジオ放送に刺激された市民が市民を虐殺する事態が発生した。一方、国連安全保障理事会は平和維持軍の司令官からジェノサイドの可能性があると情報を得ていながら消極的な対応しかなかった。この事例において、国連はどのように介入の価値や損失を認識したのだろうか。心理学のプロスペクト理論によれば、利得の主観的認識は実際の利得よりも過小評価され、損失の主観的認識は実際の損失よりも過大評価される傾向がある。石油資源を持つソマリアへの

介入の失敗もあって、自然資源の利得が期待されなかったルワンダへの介入による損失が実際よりも大きく認識されたのではないか。

* * *

平和研究は、きわめて学際的である。「学際的」とは複数の学問分野にまたがることだが、どのようにまたがるかによっていくつかのパターンがある。ひとつは、複数の専門分野に精通したうえで、多角的な接近をしてゆくマルチディシプリナリーな方法である。例えば、法学と経済学とをダブルメジャーとしたうえで、平和や和解の制度化について法学の規範性と経済学の合理性から分析することができるであろう。社会科学の学問領域だけでなく、人文科学や自然科学にまたがる場合もある。例えば、地球温暖化対策を研究するためには、経済学だけでなく物理学や化学の知識も必要になる。宗教間対話を推進するためには、宗教学やコミュニケーション学の知見が不可欠だろう。

もうひとつのパターンは、例えば、言語心理学や政治経済学というように最初からふたつの学問分野を結びつけたインターディシプリナリーな取り組みである。さらに既存の学問領域にとらわれず、トランスディシプリナリーな研究領域として平和研究を位置づける見方もある。どのパターンを追うかは学ぶ者の自由だが、平和研究の先駆者たちは従来の世界観に合わせるのではなく新しい見方を解き放ってきた。学際的な平和研究の成功は、常識に囚われた自らを批判し、そこから自分自身を解放する学びができるかどうかにかかっている。

参考文献

- 石澤靖治『戦争とマスメディア』（ミネルヴァ書房、2005年）
上野千鶴子編『構築主義とは何か』（勁草書房、2001年）
枝廣淳子、草郷孝好、平山修一『GNH（国民総幸福）』（海象社、2011年）
大石繁宏『幸せを科学する』（新曜社、2009年）
ジョン・C・マーハ、ジュディ・グローヴス『チョムスキー入門』（明石書店、2004年）
ブルース・ラセット『パクス・デモクラティア』（東京大学出版会、1996年）
フレデリック・ドルーシュ編『ヨーロッパの歴史 第2版』（東京書籍、1998年）
ベリー・アイケングリーン『21世紀の国際通貨制度』（岩波書店、1997年）
リチャード・ランガム、デイル・ピーターソン『男の凶暴性はどこからきたか』（三田出版会、1998年）
Arnold, Thomas. *Thucydides: History of the Peloponnesian War*. Cambridge: Cambridge University Press, 2010.
Webel, Charles and Johan Galtung, Eds. *Handbook of Peace and Conflict Studies*. New York: Routledge, 2007.

次の問題（1－40）には、それぞれ a, b, c, d の答えが与えてあります。
各問題につき、a, b, c, d のなかから、最も適当と思う答えを一つだけ選び、
解答カードの相当欄にあたる a, b, c, d のいずれかのわくのなかを黒くぬ
って、あなたの答えを示しなさい。

例 

-
1. アメリカ同時多発テロ事件以降の「対テロ戦争」の一環とされる出来事は、以下のうちどれか。
 - a. クウェートに侵攻したイラク軍は、多国籍軍の反撃を受けて撤退した。
 - b. アメリカ軍はイギリス軍とともにアフガニスタンを攻撃し、ターリバーン政権を倒した。
 - c. 北大西洋条約機構軍がコソヴォ問題でユーゴスラヴィアを空爆した。
 - d. 日本で日米防衛協力の新ガイドライン関連法が成立した。

 2. 大学本館として使われている建物の建築着工の日が広く記憶されていると筆者が述べているのは、なぜだと考えられるか。
 - a. 北京郊外の盧溝橋付近で日本軍と中国国民党軍との衝突事件が発生し、日中戦争の発端となった日だから。
 - b. ポーランドに侵攻したドイツに対して、イギリスとフランスがただちに宣戦布告し、第二次世界大戦が始まった日だから。
 - c. 日本海軍がハワイの真珠湾にある米海軍基地を奇襲攻撃し、日本陸軍がイギリス領マレー半島に奇襲上陸してアメリカ・イギリスに宣戦し、太平洋戦争が始まった日だから。
 - d. フランスの敗北に乗じて日本軍がフランス領インドシナ北部に進駐し、日独伊三国同盟を締結した日だから。

 3. サンフランシスコ平和条約にある条文は、以下のうちどれか。
 - a. アメリカ合衆国の陸軍、空軍及び海軍を日本国内及びその附近に配備する権利を、日本国は、許与し、アメリカ合衆国は、これを受諾する。
 - b. 連合国は、日本国及びその領水^{カツ}に対する日本国民の完全な主権を承認する。
 - c. 日本国ハ其ノ経済ヲ支持シ且公正ナル実物賠償ノ取立ヲ可能ナラシムルカ如キ産業ヲ維持スルコトヲ許サルヘシ。
 - d. 日本国ガ再び米国ノ脅威トナリ又ハ世界ノ平和及安全ノ脅威トナラザルコトヲ確実ニスルコト。

4. 実存主義には有神論と無神論の系譜があるが、キェルケゴールと同じ系譜に位置づけられるのは次のうちどれか。
- a. ヤスパースは、人間は戦争や死などの限界状況に直面したときにはじめて実存に目覚めて超越者の存在を確認し、他者との実存的交わりをすることができると考えた。
 - b. ニーチェは、人間の弱さを乗り越えて「力への意思」を体現した生命力あふれる超人こそが、永劫回帰の自己運命をも愛することができると考えた。
 - c. ハイデガーは、今ここにある「ひと」は世界に投げ込まれた現存在として本来的自己を見失っているが、他には置き換えられない自分の死への先駆的存在として時間性を自覚したときに本来的自己を見出すことができると考えた。
 - d. サルトルは、実存を自覚する人間存在は他の何かによって本質を規定されたものではないとして、未来に向かって自己を投企し、自由と責任を持って社会参加すべきであると考えた。
5. (ア) に該当する国についての記述はどれか。
- a. 原油や天然ガスの輸出額に占める割合が大きく、世界的な石油輸出国のひとつである。
 - b. 漁業資源が豊かだが、産業構造転換によって著しく伸びた金融サービス業が 2008 年の世界金融危機によって大きな打撃を受けた。
 - c. ダイナマイトの発明で知られるアルフレッド・ノーベルが生まれた国で、その遺産によって自然科学や人文・社会科学などの部門でノーベル賞が授与されている。
 - d. 農林業中心の経済からハイテク産業を基幹とする工業先進国へと転換し、国際的な学習到達度調査で上位を占める教育が知られている。
6. 構造的暴力と個人的暴力との関係について、筆者の主張に最も近いものはどれか。
- a. 個人的暴力をなくす実践を進めればそれを支えていた支配構造も機能しなくなるから、構造的暴力もなくなる。
 - b. 目標として構造的暴力を廃絶するためには、手段としての個人的暴力が必要になることもありうる。
 - c. 時間や空間によって暴力の発現形態は異なるから、個人的暴力を除去し、社会正義を実現するという両方の目標に向かって努力するのは効率的ではない。
 - d. 個人的暴力を除去しつつ社会的不正に対する闘いを進めていく研究や実践が生まれないと信ずる理由はない。

7. 資料文 (p. 2) にある「複合的危機」に対処する方法として、筆者の考え方に最も近いと考えられるものはどれか。
- a. 人々の危機意識や世論動向を分析して、私たち一人ひとりができる範囲で個別に対処する。
 - b. 国家主権を強化し、国家間協力を推進しながら強制力のある政策や規制で確実に対処する。
 - c. 危機が複合的に影響し合うメカニズムを総合的に解明し、異なる主体が協調しながら危機構造全体に対処できる共同体を作る。
 - d. 国際機関などで複合的危機の原因を調査し、多国籍企業の影響力や市場メカニズムを活用して対処する。
8. 冷戦期に『ペロポネソス戦争史』が読み返された主な理由として、最も適切だと考えられるものはどれか。
- a. ローマ帝国の五賢帝時代のパックス・ロマーナが冷戦期の「長い平和」に似ていたから。
 - b. アテネを盟主とするデロス同盟とスパルタを盟主とするペロポネソス同盟との対立が米ソ両陣営の対立構造に似ていたから。
 - c. ペルシア戦争でペルシア側についたマケドニアがペロポネソス戦争では中立を保ち、後に共和政ローマに属州として併合されたことが非同盟諸国の命運に似ていたから。
 - d. カルタゴと共和政ローマとのポエニ戦争が、民主化を求める共産圏内の抵抗と似ていたから。
9. ヨーロッパで主権国家体制が成立した 16 ～ 17 世紀に関する記述はどれか。
- a. 国民皆兵による徴兵制が導入された。
 - b. 常備軍を維持するための租税制度と中央集権的な官僚機構が芽生えた。
 - c. 世界最古の大学といわれるボローニャ大学がイタリアで設立された。
 - d. 三圃制の普及や犁・水車の改良などによって農業生産が増大した。

10. 冷戦後の世界が「新しい中世」と呼ばれる理由は、どれだと考えられるか。
- a. 感染症の蔓延や宗教間対立によって「暗黒の中世」のような様相となる一方、やがてルネサンスを開花させた技術革新やグローバル化も見られるから。
 - b. グローバル化の進展によって多様な権威が重なり合い、多元的な忠誠システムが存在するようになったから。
 - c. 冷戦後の世界では、文明間の衝突を対立軸として世界秩序が再編成されるようになったから。
 - d. 社会主義陣営が崩れ始めて自由民主主義体制が最終形態として拡散し、歴史が終焉したように見えるから。
11. 緊張緩和（デタント）の成果として多国間で採択された 1975 年のヘルシンキ宣言には含まれていなかったことは、どれだと考えられるか。
- a. 常設の地域機構として欧州安全保障協力機構を創設すること。
 - b. 経済、科学技術、文化などの分野における協力や交流を進めること。
 - c. 主権尊重、武力不行使、国境不可侵など現状維持を確認すること。
 - d. 軍事演習の事前通告など信頼醸成措置をとること。
12. 資料文（p. 3）で言及されている「ユネスコ憲章前文」とは、どのような内容の文章だと考えられるか。
- a. すべて人は、意見及び表現の自由に対する権利を有する。
 - b. 国の内外の多様な情報源（文化的にも多様な情報源を含む）からの情報及び資料の作成、交換及び普及における国際協力を奨励する。
 - c. 戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない。
 - d. 親は、子に与える教育の種類を選択する優先的権利を有する。
13. 資料文（p. 3）で言及されている「真実や事実とは必ずしも同一ではない歴史的現実」とは、どういうことか。
- a. 公文書や私的日記など一次史料をもとに実証的に歴史が叙述されること。
 - b. 各国の教科書など歴史家が編纂した二次史料がどう読まれているかを分析すること。
 - c. 当事者へのインタビューなどによって、オーラル・ヒストリーを集合的記憶にすること。
 - d. 現在の特定視角から問題化され、再構成された物語として歴史が叙述されること。

14. ヨーロッパで三十年戦争が行われている時期の日本とオランダの関係についての記述はどれか。
- a. 平戸にあったオランダ東インド会社の商館が長崎の出島に移された。
 - b. 前野良沢や杉田玄白らがオランダ語版の解剖書を『解体新書』に訳述した。
 - c. オランダ商船リーフデ号が悪天候により豊後国（現在の大分県）に漂着した。
 - d. オランダ商館医だったシーボルトが鳴滝塾をひらいて西洋医学教育を行った。
15. 世界人権宣言の条文のうち、社会権的基本的人権と理解されているものはどれか。
- a. すべて人は、生命、自由及び身体の安全に対する権利を有する。
 - b. 何人も、拷問又は残虐な、非人道的な若しくは屈辱的な取扱若しくは刑罰を受けることはない。
 - c. すべて人は、教育を受ける権利を有する。
 - d. すべて人は、思想、良心及び宗教の自由に対する権利を有する。
16. 資料文（p. 3）で筆者が説明している「権利ベースのアプローチ」を直接的に適用した取り組み例として、最も適切なものはどれか。
- a. 途上国の貧困層の子どもたちが初等教育を受けられないのは、必要な学校や教員が不足しているためなので、学校を建て教員を配置した。
 - b. 途上国の貧困層の子どもたちが初等教育を受けられないのは、家事労働をしているためなので、教育機会を失っていることを家族や地域住民に意識してもらう啓発プログラムを実施した。
 - c. 途上国の貧困層の子どもたちが初等教育を受けられないのは、家族の可処分所得が低いいためなので、所得向上プログラムを実施した。
 - d. 途上国の貧困層の子どもたちが初等教育を受けられないのは、途上国政府の教育関係予算が不足しているためなので、官民共同で資金援助をした。
17. 国際刑事裁判所についての正しい記述はどれか。
- a. 国際連合の常設の国際司法機関である。
 - b. ミロシェヴィッチ元ユーゴスラヴィア大統領は、ここで裁かれた。
 - c. 国際テロ犯罪や麻薬取引など広範囲の国際犯罪を対象としている。
 - d. 個人が訴追対象となるが、国内の裁判所が訴追している事件は取り扱わない。

18. ドイツでヴァイマル憲法が制定された第一次世界大戦終結直後における日本の状況を示した記述はどれか。
- a. 女性参政権をはじめて認めた新選挙法が制定された。
 - b. 幸徳秋水らが日本初の社会主義政党である社会民主党を結成した。
 - c. 平塚らいてうらが新婦人協会を設立して女性の地位を高める運動を進めた。
 - d. 憲政党の大隈重信を首班とする第一次大隈内閣が成立した。
19. デモクラティック・ピース論への反証とされる下記の事例について、資料文中（p. 4）に言及されている理由からの反駁はどれか。
- a. 1898 年の米西戦争期のスペインの男子普通選挙は名目的であり、国王や側近によって操作されていたので民主制の条件を欠いていた。
 - b. 1861 年のアメリカ南北戦争は、南部連邦の主権が国際的に承認されておらず、国家間の戦争ではなく内戦に過ぎなかった。
 - c. 1967 年のレバノンとイスラエルの 6 日間戦争でレバノンはイスラエルの領空に 2 機の戦闘機を送ったが、死傷者を出さずに撃退されたので戦争と呼ぶに足るものではない。
 - d. 1899 年のボーア戦争は、失敗に終わった独立戦争であり、民主国家間の戦争ではない。
20. 資料文（p. 4）で言及されている「共同体主義」に対する批判を示した記述はどれか。
- a. 災害時に人々がパニックを起こすという懸念はエリートの妄想に過ぎず、むしろ人々は利他的・相互扶助的な行動をとっている。
 - b. 多くの事例において、災害や危機などで人々がショック状態にあるときに便乗して市場原理主義的な経済政策が導入されている。
 - c. 東日本大震災に対するグローバルな反応や支援の広がり、コミュニティの意味やその境界線が変わりつつあることを示している。
 - d. 人々の絆や連帯を強調して増税を正当化することは、震災後の復興の遅れや原発事故に対する政府や事業者の責任を曖昧にしている。
21. ケインズ主義では、どのような政策が主張されたか。
- a. 政府がマクロ経済政策を通じて有効需要を創出する。
 - b. 減税措置や政府規制の緩和を通じて生産力の増強や物価水準の安定を図る。
 - c. 金本位制を通じて金と兌換紙幣の交換を保証する。
 - d. 生産や配分などの経済活動を政府が立案した計画を通じて運営する。

22. ブレトンウッズ体制に関する正しい記述はどれか。
- a. 変動相場制に移行することで、国際貿易の自由化の促進が図られた。
 - b. 基軸通貨である米ドルに対する各国通貨の為替相場を狭い変動幅に定めた。
 - c. 世界貿易機関の前身となる国際貿易機関が設立された。
 - d. 債権国と債務国とが調整費用を負担し合う国際清算同盟が設立された。
23. ブレトンウッズ体制崩壊の原因について、最も適切な記述はどれか。
- a. アメリカの輸入増やベトナム戦争の戦費支出によって米ドルが海外に大量に流出し、各国のドル残高と金との兌換に疑問が生じた。
 - b. 長期化したベトナム戦争を終結させるためにニクソン大統領が極秘に中国との関係改善交渉をしたため、西側諸国間でのアメリカ外交への信頼が揺らいだ。
 - c. 石油輸出国機構のカルテルによって石油メジャーから石油価格の決定権が奪われ、米ドルによる石油取引ができなくなった。
 - d. 国連資源特別総会で新国際経済秩序樹立宣言が採択され、国際通貨金融機関の決定過程への途上国の参加が強化されたため米国の支配力が低下した。
24. 21世紀の国際通貨体制について、資料文の筆者の考えに最も近いと考えられるものはどれか。
- a. 古典的な金本位制へと回帰すべきである。
 - b. 米ドルを基軸通貨とするブレトンウッズ体制に回帰すべきである。
 - c. 国際通貨基金の特別引出権を活用し、世界通貨創設への糸口をつかむべきである。
 - d. 国家、市場、市民社会がそれぞれにポスト・ブレトンウッズ体制を模索する時期がしばらく続く。
25. 2008年の世界同時金融危機を招いた諸要因のうち、世界経済の不均衡に原因を求める記述はどれか。
- a. 信用度の低いサブプライム層に対する住宅ローンの過剰貸付が住宅バブルの崩壊を招いた。
 - b. 金融市場の規制緩和が進むなかで発展したリスクを証券化する新しい金融商品に対して、金融当局や金融機関、格付け機関などが十分に対応できていなかった。
 - c. ITバブル崩壊による景気後退のなかで各国がとった低金利政策が世界的に資金を調達しやすい環境を形成し、レバレッジやリスクの高い投資が拡大した。
 - d. アメリカの経常収支赤字が、アメリカの家計の過剰消費や中国をはじめとする新興国の過剰貯蓄によって拡大した。

26. 資料に掲載されている図表データから、総合的に結論できることはどれか。

- a. 経済的に恵まれた人々と質素な暮らしを送る人々との幸福感に際立った差がないことから、人生の満足度と所得は無関係である。
- b. 経済成長や所得といった要因のみから幸福度を予測するのは困難なので、人間関係など他の要因についても検証する必要がある。
- c. 経済的に成長するほど生活満足度が減少していることから、経済成長と人生の満足度には負の相関関係がある。
- d. 年収の多い人々は少ない人々よりも幸福度が高いことから、所得と人生の満足度には正の相関関係がある。

27. (イ) に該当する国について記述したものはどれか。

- a. 中国、インド、バングラデシュなどに隣接する国土の中心にはエーヤワディー川が縦断しており、農業が主要産業となっている。
- b. モンスーンの影響を受ける内陸国で、雨期と乾期が明確である。もち米が主食だが、主要輸出作物はコーヒーである。
- c. 国民の大多数は仏教徒で、ヒマラヤ山脈の雪解けの水を利用した発電や有機農業を拡大する取り組みがなされている。
- d. 中国とインドに隣接する国土の南部にはガウタマ＝シッダールタ（ブッダ）生誕の地とされる世界遺産に登録されている村があるが、国民の大多数はヒンドゥー教徒である。

28. 貨幣に関する下記の記述のうち、資料文（p. 5）で言及されているマルクスの見方はどれか。

- a. 金銀という商品は、自然のかたちのままで、ほかのすべての商品に対する一般的等価物という機能を果たす社会的な存在になっている。
- b. 貨幣は商品流通の車輪のひとつなどではなく、それら車輪の回転を円滑にするための潤滑油のようなものである。
- c. 人が貨幣を求めるのは、貨幣そのものが欲しいからではなく、貨幣で買うことのできる財貨が欲しいためなのである。
- d. 貨幣は単に交換を行う媒介物に過ぎない。

29. 21 世紀のビジネス・モデルに関して、資料文の筆者の考えに最も近いと考えられる記述はどれか。
- a. 企業の社会的責任を確立するビジネスを展開すべきである。
 - b. 非効率的な公共投資でも私的な利益追求の民間投資でもない社会的な戦略投資に向けたフィランソロピー（慈善事業）が必要である。
 - c. 企業の事業活動と社会、環境、経済、平和の相関関係をステークホルダーに明らかにすることで変革的なビジネスをすべきである。
 - d. 企業の利益を追求しつつ、消費者としての貧困層の生活水準や生活環境を向上させるビジネスをすべきである。
30. 現存する社会においてピラミッド型の支配構造を想定していない見方はどれか。
- a. 多数者は、永遠の未熟者として、歴史の非情な運命に縛られて自らの中から生まれた少数者の支配の下に甘んじ、巨大な寡頭支配者の踏み台の役を果たすほかないものである。
 - b. プロレタリアはこの革命において鉄鎖のほかに失う何ものをも持たない。彼らが獲得するものは世界である。万国の労働者よ、団結せよ。
 - c. 工場でも軍隊でもあるいはその他どのような大きな組織でもそれを詳しく調べてみると、リーダーシップが不在であって、しかもたいへん雰囲気がよくて、それでなおかつ、物事がちゃんと進行している。
 - d. 権力エリート層は、大会社を支配し、国家機関を駆使し、国家機関における特権を要求し、軍事力を指揮している。
31. 女性の政治参加拡大に向けたポジティブ・アクションのうち、即効性が高いと考えられて紛争終結後のルワンダやアフガニスタンで採用された方式はどれか。
- a. 政党が党規則などによって自発的に議員候補者の比例名簿の順位を男女交互にすることを定める。
 - b. 政党が党規則などによって自発的に議員候補者の一定割合を女性とすることを定める。
 - c. 憲法あるいは法律によって議員候補者の比例名簿の一定割合を女性とすることを定める。
 - d. 憲法あるいは法律によって議席の一定数を女性に割り当てることを定める。

32. 資料文中 (p. 7) で言及されている「男性中心主義的な社会構造を維持しながら『ガラスの天井』を壊す」例として、最も該当するものはどれか。
- a. 育児や介護は女性が担うという慣習を維持しつつ、女性の管理職の比率を引き上げる。
 - b. フレックス制度の導入部署を広げることによって、男性の家事への参加率を引き上げる。
 - c. 専業主婦の家事労働に対して、夫が賃金を支払う。
 - d. 女性が自らの出産数を管理する権利を行使する。
33. 資料文 (p. 7) のなかで「戦争指向は人間固有のものではなく人類誕生以前の過去にまでさかのぼる」と人類学者が判断する際に使った方法論はどれか。
- a. 個別具体的な事例から一般的な法則を推論する帰納法。
 - b. 観察可能なデータによる反証がなされるまで、作業仮説を正しいとする仮説演繹法。
 - c. 現地社会の一員として生活しながら参与観察することで生活様式全体を共感理解する意味解釈法。
 - d. ふたつの対立する見解を止揚することによって、より高次元の真理に到達しようとする弁証法。
34. 資料文 (p. 7) で筆者が述べている平和をめぐる「言語ゲーム」とは、どういうことか。
- a. 「平和」という言葉が発せられるとき、発話者の顔つきや眼つき、身体の動き、声の調子などによってどのような心の状態を示しているかを考えること。
 - b. 「平和」という言葉を言語社会の記号体系としてのラングと、個人の発話行為であるパロールに分けて捉えること。
 - c. 「平和」という言葉を発することによって相手に何らかの行動をとらせる言語行為として捉えること。
 - d. 「平和」という言葉が人々の生活を基盤とした日常生活でいかに使用されているのかについて考えること。
35. 「国内避難民」と同様に、難民の地位に関する条約 (1951 年) には「難民」として定義されていないものはどれか。
- a. 政治的意見を理由に迫害を受けるおそれがあるため国籍国を離れ、その国籍国の保護を受けることを望まない者。
 - b. 経済的困窮を理由に国籍国を離れ、自発的に他国の居住地に移動した者。
 - c. 宗教を理由に迫害を受けるおそれがあるため国籍国を離れ、その国籍国の保護を受けることができない者。
 - d. 1946 年国連総会で採択された国際難民機関憲章により難民と認められた者。

36. 資料文によると、ヴィトゲンシュタインとチョムスキーの言語観の共通点あるいは相違点に関する最も適切な記述はどれか。
- a. ヴィトゲンシュタインもチョムスキーも、人間の言語能力には完璧なまでの可塑性があるので、人間はどのような言語でも生得的に学習できると考えた。
 - b. ヴィトゲンシュタインもチョムスキーも、幼児の言語技能は大人のモデルの模倣が社会的に強化された文化的機能であると考えた。
 - c. 人間の言語能力はその獲得法を組み立てられるよう遺伝的に準備されており、社会的作用が引き金となって修正されながら発達するとチョムスキーは考えたが、ヴィトゲンシュタインはそうではない。
 - d. 人間の言語的知識は言語の実践活動から導き出されるもので、非本能的な外部環境が決定するとチョムスキーは考えたが、ヴィトゲンシュタインはそうではない。
37. 資料文（p. 8）で言及されている意味での「フレーミング」にあたる例はどれか。
- a. 国際的に有力な新聞社が核不拡散条約で規定されている核保有国の核軍縮義務の不履行に言及せずに、非核保有国の核兵器開発の意図を報道した。
 - b. イラク戦争のニュースを配信する通信社が、従軍ジャーナリストだけでなく、独自の取材クルーを派遣して軍や政府の情報の信頼性をチェックするなどの取材ルールや報道内容についてガイドラインを定式化した。
 - c. 尖閣諸島に関するインターネット上の報道記事に対して、感情的な書き込みがなされ、誹謗中傷論争に発展した。
 - d. テレビ局がアフガニスタンの戦場からの衛星中継をプライムタイム番組の中で安定的に放送するためにスタジオの映像信号と同期させて報道した。
38. ルワンダのジェノサイドを止めるための介入に国際社会が消極的だったことに対する「プロスペクト理論」の説明として、最も適切なものはどれか。
- a. 人間は、合理的に損得を計算する存在であるため。
 - b. 人間は、損失よりも利益を得ることをより重視する傾向が強いため。
 - c. 人間は、利益を得ることよりも損失を被ることを避けようとする傾向が強いため。
 - d. 人間は、直感で損得を判断する傾向が強いため。

39. 平和研究の学際性について、資料文の筆者の立場に最も近いものはどれか。
- a. 経済学、政治学、社会学、歴史学といった多くの社会科学分野の複合的視点から接近すべきである。
 - b. 政治経済学、政治社会学、歴史社会学のように、異なる社会科学分野の融合的視点から接近すべきである。
 - c. 宗教社会学や経済物理学のように、社会科学だけでなく人文科学や自然科学にわたる広領域の視点から接近すべきである。
 - d. 従来の学問分野間の境界に縛られず、自由な発想をもって接近すべきである。
40. 資料文の論調は、下記のうちどの記述に最も近いと考えられるか。
- a. 本質主義から出発しているが、実存主義の立場が多く見られる。
 - b. 実存主義から出発しているが、構築主義の立場が多く見られる。
 - c. 構築主義から出発しているが、構造主義の立場が多く見られる。
 - d. 構造主義から出発しているが、本質主義の立場が多く見られる。